

制吐剤の投与日数変更を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、抗がん剤投与時の制吐剤の処方日数が短く、延長を提案することで、副作用の発現回避に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

Dさん

・卵巣がんに対して抗がん剤施行中の患者

【化学療法】TC 療法（パクリタキセル+カルボプラチン）

【内服薬】

アプレピタントカプセル 125mg 1回1個 化学療法1時間前（1日目）

アプレピタントカプセル 80mg 1回1個 朝食後 2日間（2日目～）

デカドロン錠 4mg 1回1錠 朝夕食後 3日間（2日目～）



もうすぐ Dさんに TC 療法が開始されるから、カルテを確認しておこう。
前回の TC 療法では吐き気が強く、アプレピタントカプセルは 5 日間内服していたのか。
今回の処方では 3 日間になっている。担当の先生に確認してみよう。



お疲れ様です。
何かありましたか？

お疲れ様です。
Dさんについて少しご相談があります。



TC 療法を行う予定ですが、アプレピタントカプセルの内服が 3 日間になっています。
前回は吐き気が強く、5 日間内服していたようです。
今回も吐き気が強く出る可能性があります。
投与期間の目安は 3 日間ですが、前回と同様に 5 日間内服してはどうでしょうか。



今回も吐き気が強く出る可能性はありますね。
吐き気が強いとつらいでしょうし、5 日間内服できるように追加の処方
しておきますね。

アプレピタントカプセルの投与期間は 5 日間に変更された。

支持療法を事前に確認することで、副作用の発現回避に貢献することができた。

<参考> 用法及び用量に関連する使用上の注意

がん化学療法の各コースにおいて、本剤の投与期間は 3 日間を目安とすること。また、成人では 5 日間を超えて、12 歳以上の小児では 3 日間を超えて本剤を投与した際の有効性及び安全性は確立していない。